

Model  
**LR 3**

# リトルロッキー

1本針3本糸ロックミシン

## 目次

### ご使用の手引き

このたびはベビーロックをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

・ご使用前に、この「ご使用の手引き」をよくお読みいただき正しくお使いください。

・保証書はお買い求めの販売店から必ずお受取りの上、「ご使用の手引き」とともに大切に保管ください。

各部の名称	2
付属品の明細	3
前カバーのあけ方	4
布板のあけ方	4
付属品箱のあけ方	4
電源のつなぎ方	5
スピードの調節	5
はずみ車の回転方向	5
布くず入れの取り付け方	5
アンテナのたて方	6
糸ゴマキャップとネットの取り付け方	6
押え金の上げ下ろし	7
押え金の交換	7
糸の通し方	8~13
上ルーパー糸の通し方	9~10
下ルーパー糸の通し方	11~12
針糸の通し方	13
縫いはじめ	14
縫い終わり	14
布端の始末	15
糸調子のとり方	16
送り目長さの調節	17
切り幅の調節	17
押え圧力の調節	17
針の交換	18
上メスの交換	18
針板の交換	19
巻き縫い、細幅縫い及びピコ縫い	20
ランプの取り換え方	21
注油とお手入れ	22
調子が悪いときは	23
仕様	24



## 安全にご使用いただくために

ご使用していただくに当たっては、安全のために下記のことをお守りください。

このミシンは日本国内向け、家庭用です。

FOR USE IN JAPAN ONLY



### 警告

感電、火災の恐れがあります。

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
2. 下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。電源スイッチのついていない機種は電源プラグを抜いてください。
  - ・ミシンのそばを離れるとき。
  - ・ミシンをご使用になったあと。
  - ・ミシンのご使用中に停電したとき。

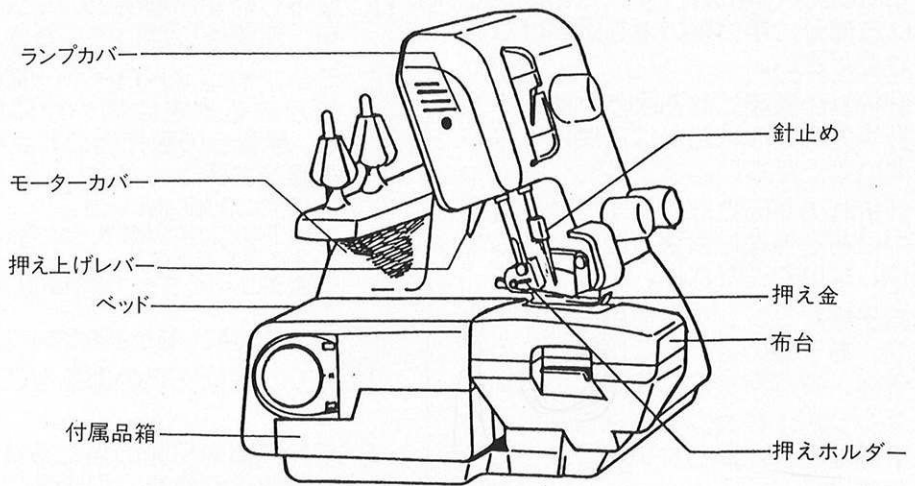
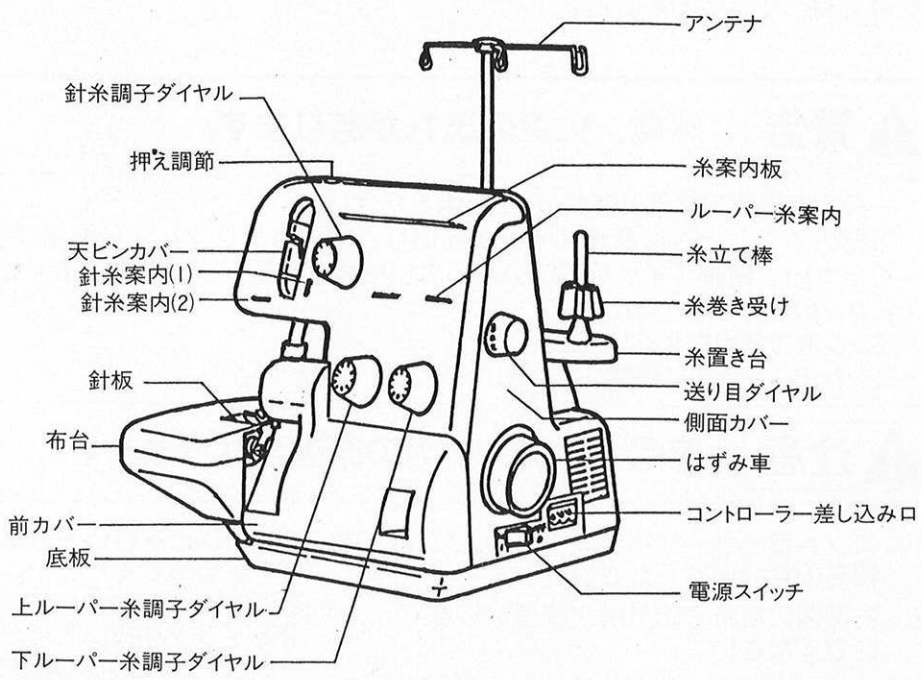


### 注意

感電、火災、ケガの原因となります。

1. コントローラーや電源コードの上に物をのせないでください。
2. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。
3. ミシンを操作するときは、ルーパークバー、布台カバーなどカバー類を閉じてください。
4. ミシンの縫製中は針から目を離さないようにし、針、メス、ルーパー、はずみ車、天びんなど、すべての動いている部分に手、髪の毛を近づけないでください。
5. 針折れの原因になるような曲がった針や先のつぶれた針はご使用にならないでください。
6. 針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引張ったり、押ししたりしないでください。
7. お子様かミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全にご注意ください。
8. ミシンおよびコントローラーに水や薬品などがかからないようにしてください。  
ミシン内部に異物を入れないでください。  
また糸くずやホコリがたまらないように定期的に掃除してください。
9. ミシン本体の換気穴をふさがないでください。
10. 下記のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。  
電源スイッチのついていない機種は電源プラグを抜いてください。
  - ・針、針板、押え、メスなどを交換するとき。
  - ・針糸、ルーパー糸の糸通しをするとき。
  - ・ランプを交換するとき。  
(ランプが冷えてから行ってください。)
  - ・(別売のランプも同様です。)
  - ・取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れ注油を行うとき。
11. 落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。
12. ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは速やかに使用停止し、最寄りの販売店にて点検、修理、調整をお受けください。
  - ・正常に作動しないとき。
  - ・落下などにより破損したとき。
  - ・水に濡れたとき。
  - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
  - ・異常な臭い、音がするとき。
13. ミシンには正規の部品をご使用ください。
14. 長時間直射日光の当たる場所やスプレー製品や酸素、引火性の高い薬品を扱っている場所で使用しないで下さい。
15. 電源プラグをコンセントから抜くときは電源スイッチを切り、コードを引っ張らずにプラグを持って抜いてください。

◇ 各部の名称



◇ 付属品の明細



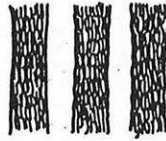
ドライバー



針セット



ピンセット



ネット



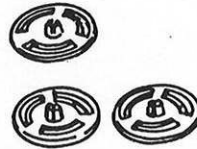
ブラシ



ミシン油



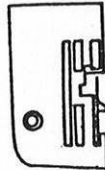
上メス



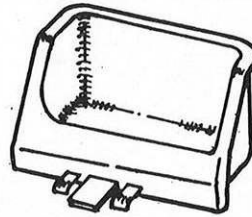
糸ゴマキャップ



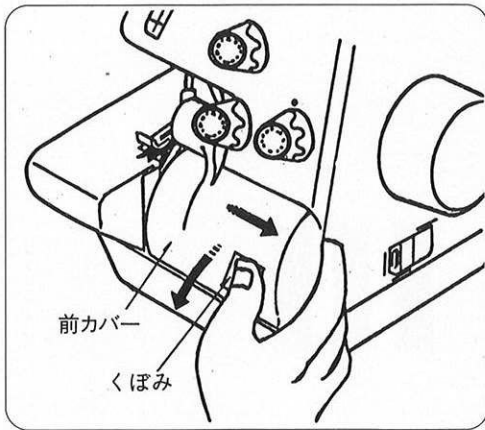
L型レンチ



巻き縫い用針板

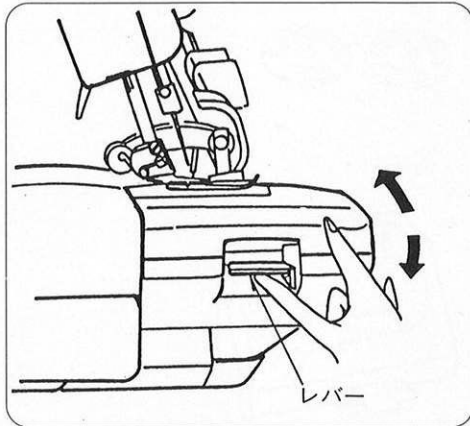


布くず受け



### ◇ 前カバーのあけ方

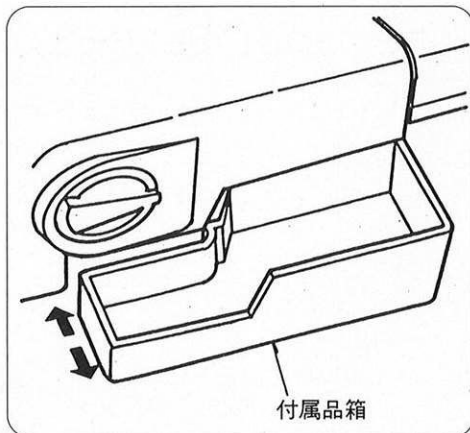
前カバーの開け方は  
左図のように前カバーのくぼみを親指で押さえながら、右に引き、手前に倒します。



### ◇ 布台のあけ方

布台の開け方は  
左側面にあるレバーを上へ引き上げたまま、布台を持って下げます。

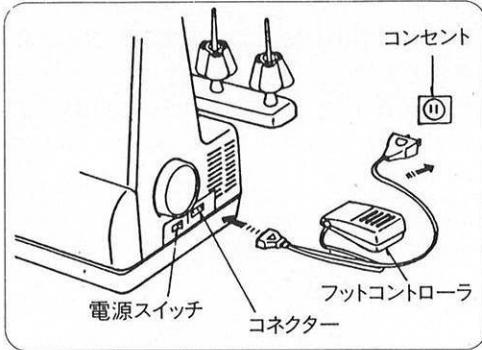
布台の閉じ方は  
布台を持ち上げ元に押しもどします。



### ◇ 付属品箱のあけ方

付属品箱の開け方は  
左側面の後方にある付属品箱を左図のとおり、本体に対して平行に引き出します。

## ◇ 電源のつなぎ方

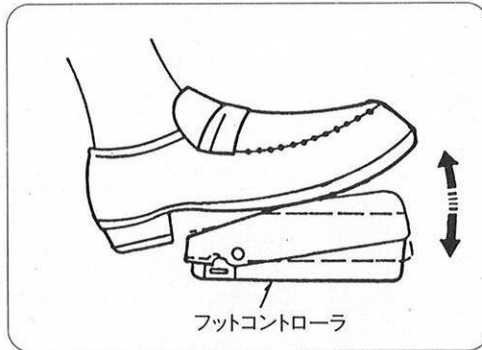


1. 電源スイッチをOFFにします。
2. フットコントローラの差し込みプラグをミシン本体のコネクターに差し込み電源プラグをコンセントへ接続します。
3. 電源スイッチをONにします。

▲ 注意：感電・火災・ケガの原因となります。

次の場合は電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから外しておいて下さい。

- ミシンを使用していないとき。
- 針・針板・押え金等可動部分のパーツ、アクセサリーの交換をしているとき。
- 糸を通したり、ミシンのお手入れをしているとき。



## ◇ スピードの調節

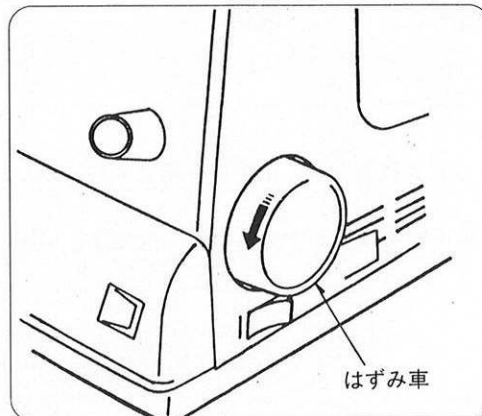
1. フットコントローラに足を軽く乗せます。
2. 軽く踏み込みます。
3. フットコントローラの踏み加減で、スピードを調節します。

▲ 注意：感電・火災・ケガの原因となります。

フットコントローラの上に物をのせないでください。長時間放置しますと火事になる恐れもあります。

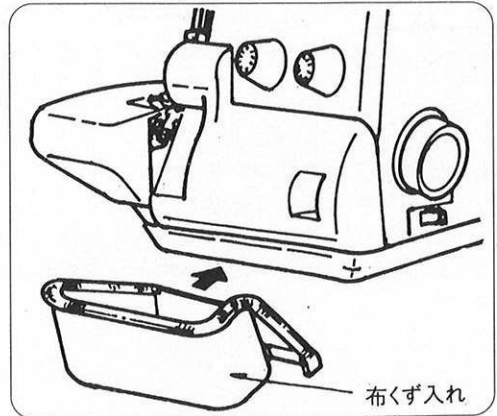
## ◇ はずみ車の回転方向

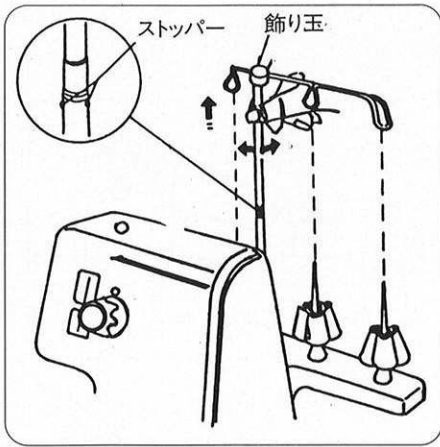
家庭用ミシンと同じように手前に回転します。



## ◇ 布くず入れの取り付け方

下図のように底板の下に突起をはさみます。

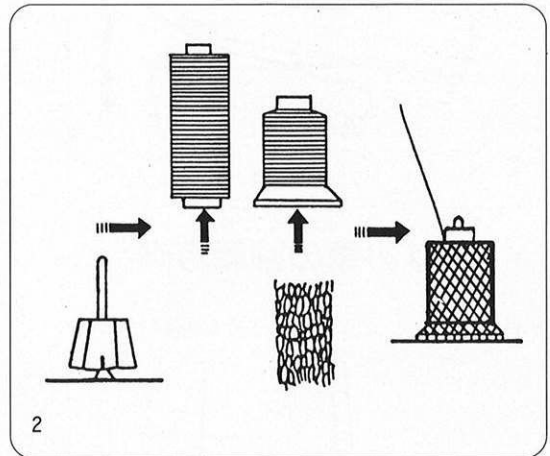
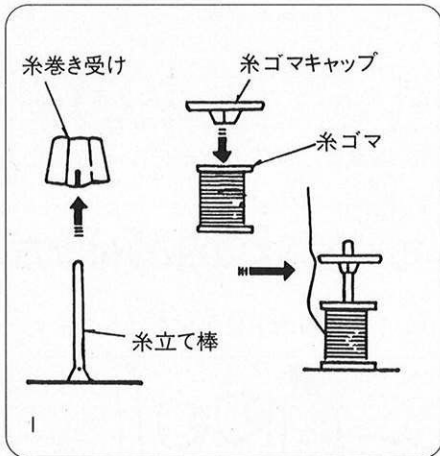




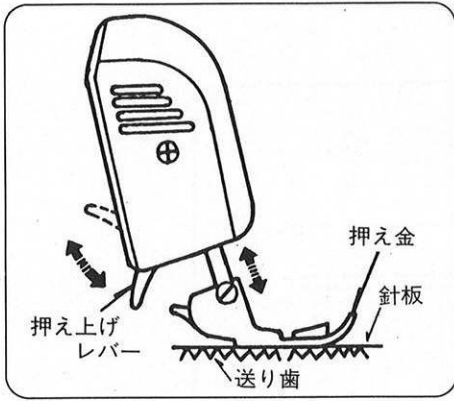
## ◇ アンテナのたて方

1. 飾り玉かアンテナの中央を持って、止まる場所までまっすぐに伸ばします。
2. アンテナを左右に少し回してストッパーに合わせます。

## ◇ 糸ゴマキャップとネットの取り付け方

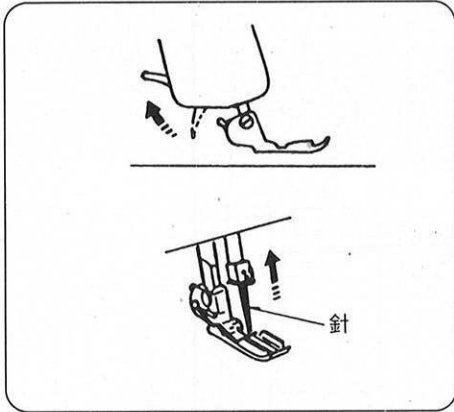


1. 径の小さい糸ゴマを使用するときは、糸立て棒から糸巻き受けを抜きとり、糸ゴマを糸立て棒に差し、糸ゴマキャップを差し込みます。
2. 糸がすべりやすく糸ゴマから糸がほつれ落ちる場合には、糸置き台に糸がからんだりしないように図のように、糸ゴマに付属のネットをかぶせます。



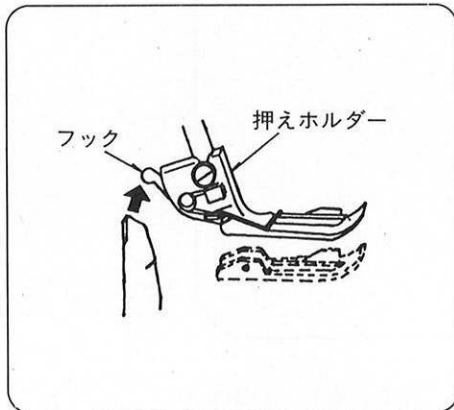
## ◇ 押え金の上げ下ろし

1. 図のように押え上げレバーを用いて、押え金の上げ下ろしをします。
2. 縫っている間、常に一定の押え圧が掛かるようになっています。
3. 押え上げレバーは2段になっています。上がった状態からさらにレバーを上げれば、押え金をさらに上げることができます。



## ◇ 押え金の交換

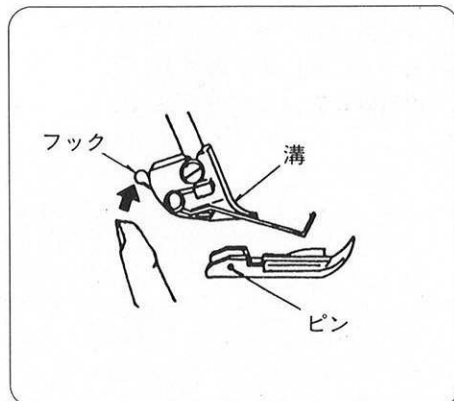
1. 押え上げレバーを上にあげます。
2. はずみ車を手前に回して針を上にあげます。



3. 押えホルダーの後方にあるフックを押して押え金を外します。押え上げレバーをいっぱい上げて押え金をとり出します。

▲ 注意：ケガの恐れがあります。

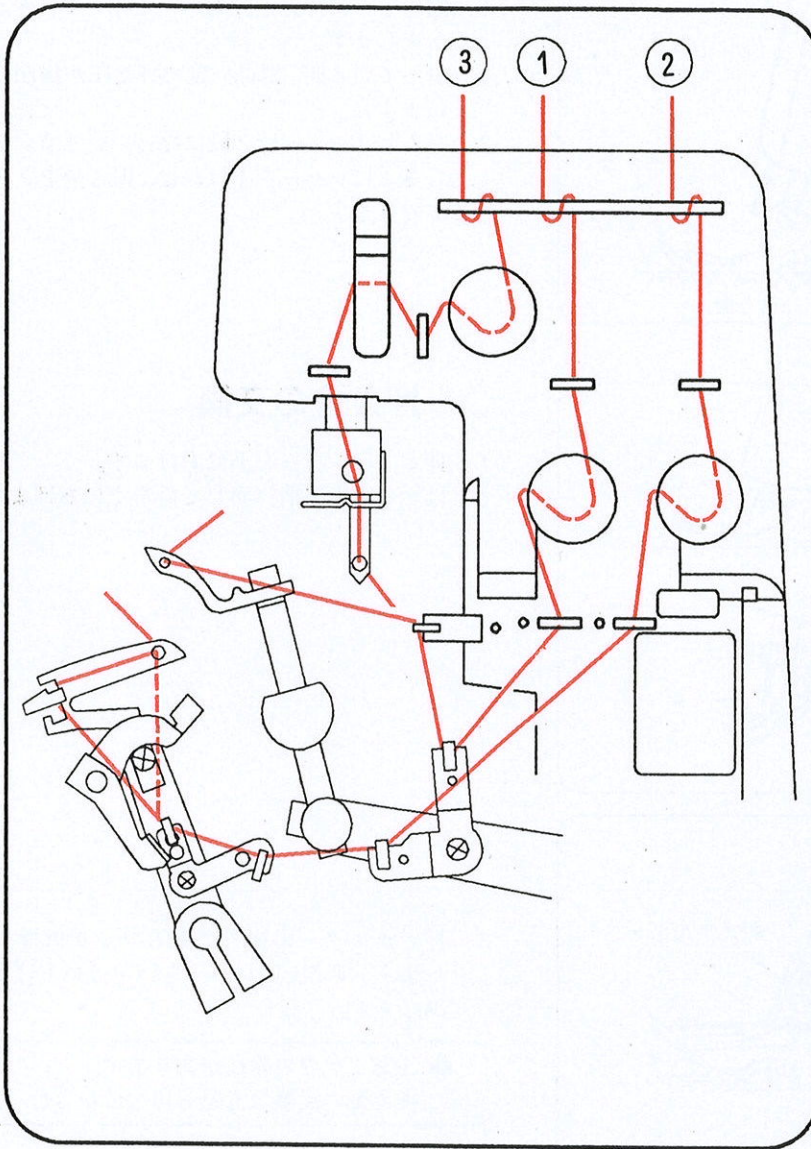
押え金の交換は電源を切ってから行ってください。



4. 押え金のピンが押えホルダーの溝に一致するように置きます。
5. 押え上げレバーを下げ、フックを押して押え金を押えホルダーにはめ込みます。
6. 押え上げレバーを上を再びあげて、押え金が確実に押えホルダーにはまり込んでいるか確認します。



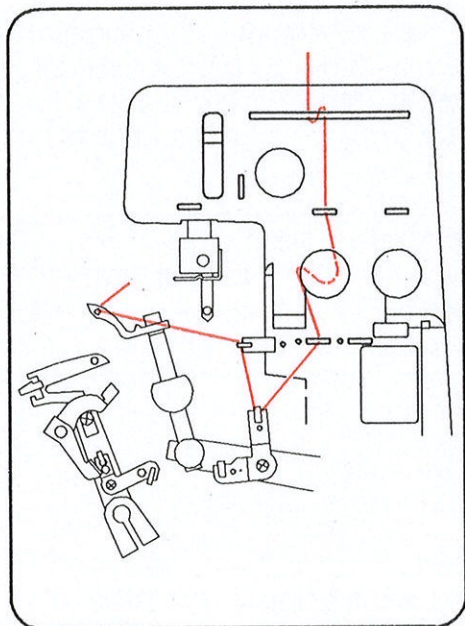
## ◇ 糸の通し方



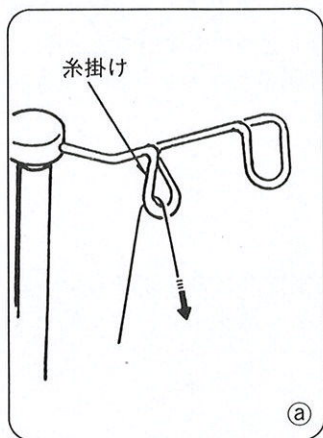
### 注意

1. 普通、上ルーパー糸を通してから、順に下ルーパー糸、針糸と通していきます。
2. 糸の通し方を間違えると、目飛び、糸切れの原因となり、縫えません。  
縫う前に糸が正しく通っているか必ず確認して下さい。
3. 上メスを解除しておけば針穴への糸通しがしやすくなりますが、元に戻すのを忘れて縫いますと、布地がミシンにくい込んで故障、ケガの原因となりますので注意が必要です。上メスの解除はP18をご覧ください。

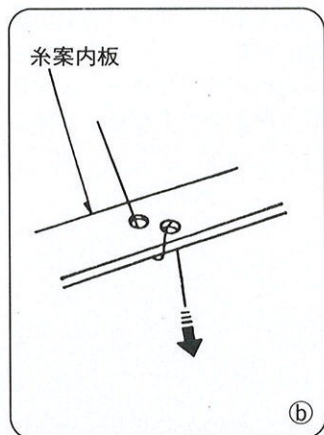
## 一上ルーパー糸の通し方



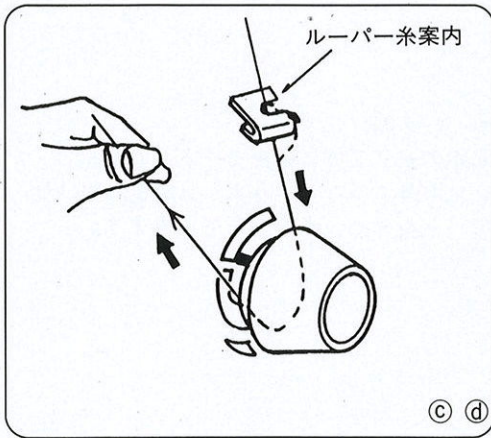
1. 前カバーを開けます。
2. まん中の糸立て棒に糸をセットします。
3. ミシン正面についているオレンジ色の印に従って、上ルーパー糸を通していきます。



- (a). アンテナの右から二番目にある糸掛けに糸を後ろから前に通します。

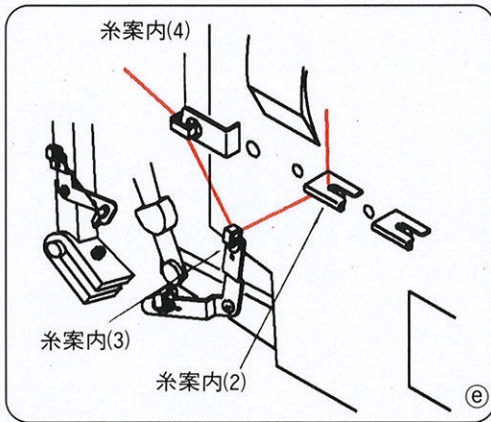


- (b). 糸案内板のまん中にある糸穴に図のように矢印方向に糸を通します。

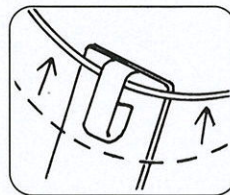


- ③. 糸の上下をつまんで、左側のルーバー糸案内の切れ込みに左から引っかけるようにして糸を通します。
- ④. つぎに糸調子皿の間に糸を右から左へかけます。確実に通るように、さらに上に引き上げます。

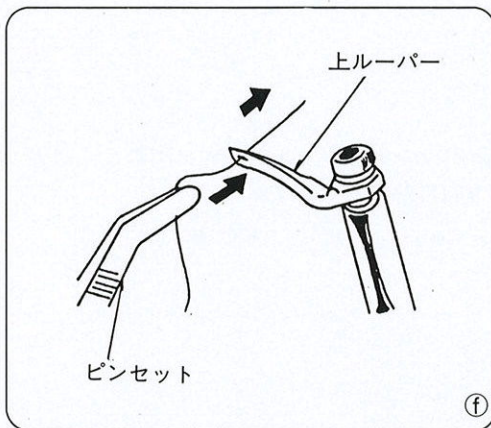
**▲ 注意：ケガの原因となります。**  
 これより先の糸通しは必ず電源を切って行って下さい。何かのはずみでフットコントローラが押されミシンが始動すると危険です。



- ⑤. 図のように、糸を糸案内(2)、(3)、(4)と順に通していきます。
- はずみ車を回してルーバーを動かし、糸案内を図のような位置にしておくとしやすいでしょう。指で通しにくい所は付属のピンセットを使います。



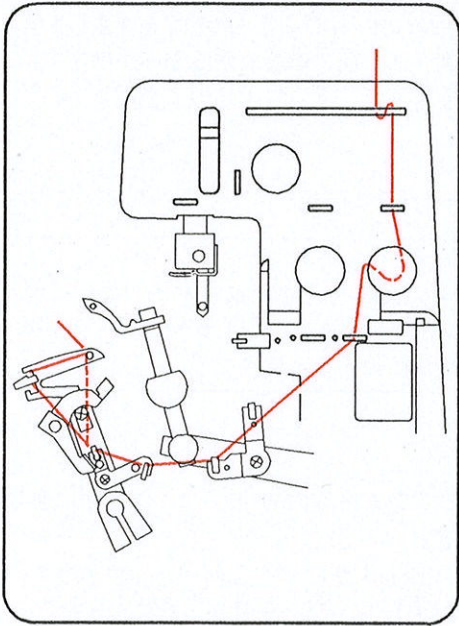
糸案内(3)は糸を下から引っかけると通るようになっていす。



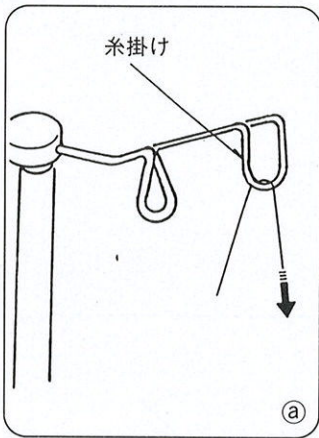
- ⑥. はずみ車を手前に回して、上ルーバーの先端が針板の右側にくるようにします。
- ピンセットで糸を上ルーバーの穴に通し、糸端を穴から15cm程度引き出し押え金の下を通して後に出しておきます。

- ⑧. 糸が糸案内以外の所にひっかかったりしていないかも一度確認しておきます。

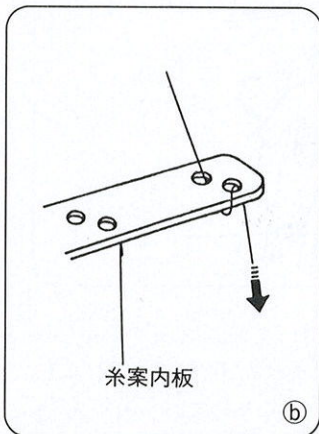
## 一下ルーパー糸の通し方



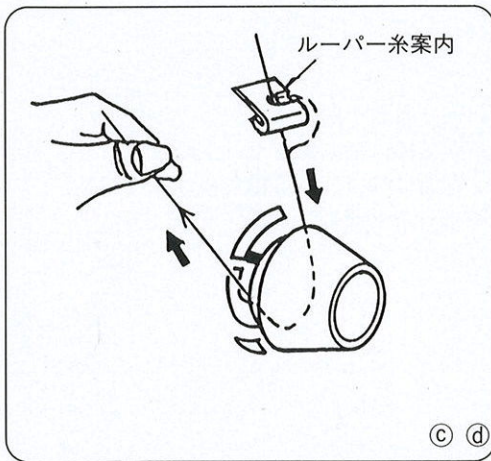
1. 前カバーと布台を開けます。
2. 右の糸立て棒に糸ゴマをセットします。
3. ミシン正面に付いている緑色の印に従って、  
下ルーパー糸を通していきます。



- ①. アンテナの右の糸掛けに糸を後ろから前に通します。

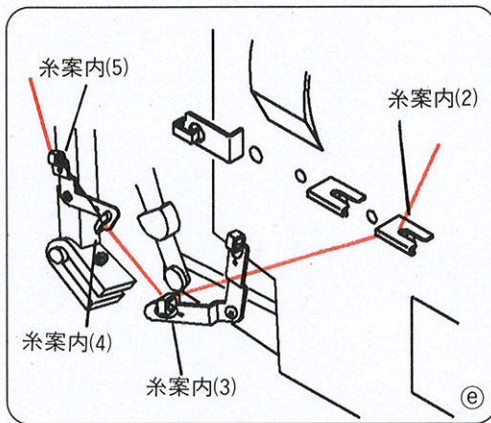


- ②. 糸案内板の右の糸穴に図のように矢印方向に糸を通します。



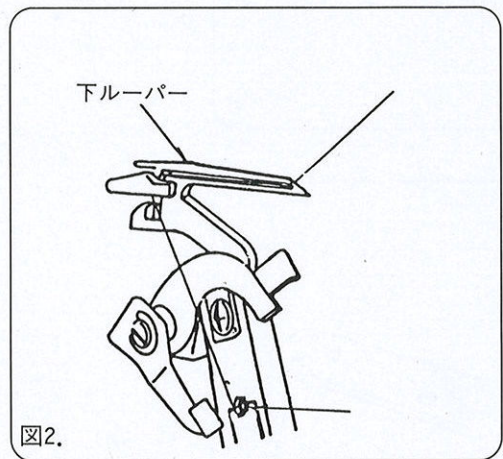
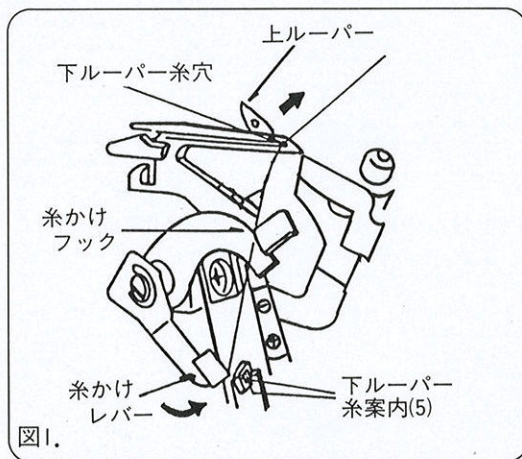
- ③. 糸の上下をつまんで、右側のルーバー糸案内の切れ込みに左から引っかけるようにして糸を通します。
- ④. つぎに糸調子皿の間に糸を右から左へかけます。確実に通るように、さらに上に引き上げます。

▲注意：ケガの原因となります。  
これより先の糸通しは必ず電源を切って行って下さい。何かのはずみでフットコントローラが押されミシンが始動すると危険です。



- ⑤. 図のように、糸を糸案内(2)、(3)、(4)、(5)と順に通していきます。  
はずみ車を回してルーバーを動かし、糸案内を図のような位置にしておくことで通しやすいでしょう。指で通しにくい所は付属のピンセットを使います。

### ◇ 下ルーバー糸かけフックの使い方

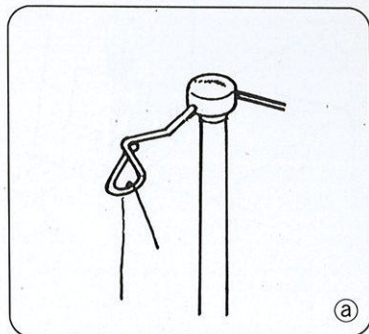
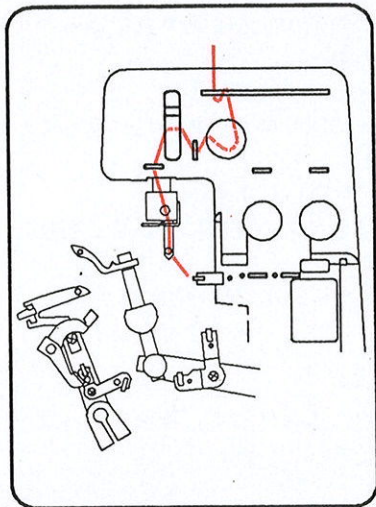


糸案内(5)に通したあと

1. はずみ車を回して、下ルーバーが針板の下から右側へ出て上ルーバーと交差し、上ルーバーの先が見えるぐらいの所でとめます。
2. ピンセットで下ルーバーの先に糸を通し、必ず上ルーバーと上ルーバー糸の上へ糸を引き出します。
3. 糸を押え金の下に通して後に15cm~20cm出して左手で軽く引っばっておきます。
4. 糸が図1のように糸かけフックにかかるようにしておき、糸かけレバーをとるところまで上げたらレバーから指をはずします。
5. 図2のように下ルーバーの糸かけが完了します。

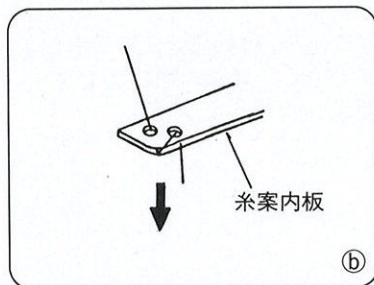
# 一針糸の通し方

▲ 注意：ケガ防止の為、電源を切って行って下さい。

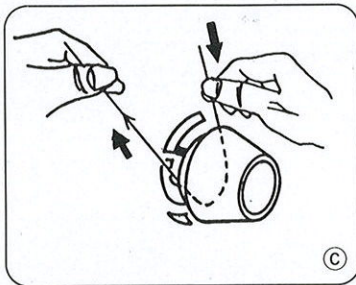


①. アンテナの左の糸掛けに糸を後ろから前に通します。

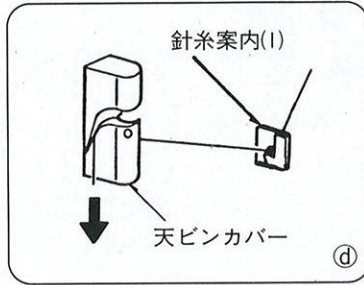
1. 左の糸立て棒に糸ゴマをセットします。
2. ミシン正面に付いている青の印に従って、針糸を通していきます。



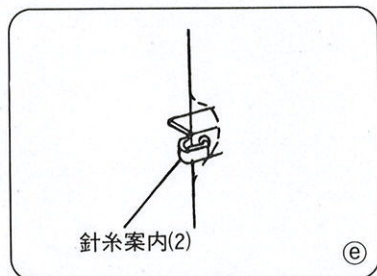
②. 針糸案内板の左にある糸穴に図のように矢印方向に糸を通します。



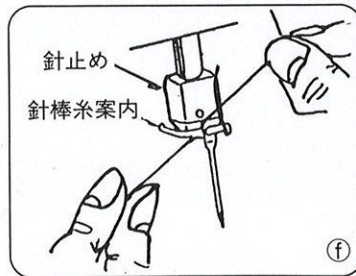
③. つぎに糸調子皿の間に糸を右から左へかけます。確実に通るように、さらに上に引き上げます。



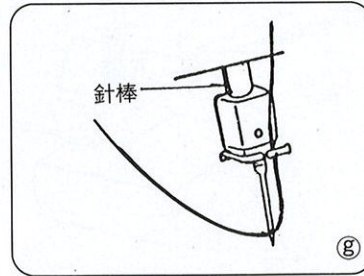
④. 針糸案内(1)と天ピンカバーに糸を通します。



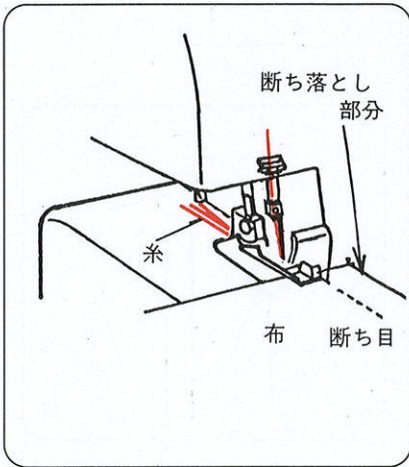
- ⑤. 針糸案内(2)に糸を通します。
- ⑥. はずみ車を回し、針を一番上にします。図のように糸を持ち、針棒糸案内の左のすき間から糸を入れ右側の輪のようになっている部分へ糸を通します。



針止めと糸案内の間にわずかなすき間があり糸を右奥に押すようにすれば通ります。もちろん上から下へ通しても結構です。



⑦. 針穴に糸を通し、押え金の下を通して後へ10cmほど出しておきます。



## ◇ 縫いはじめ

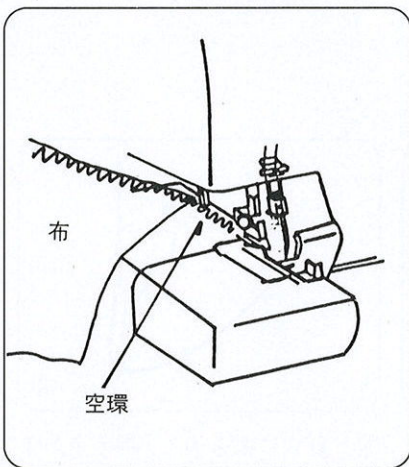
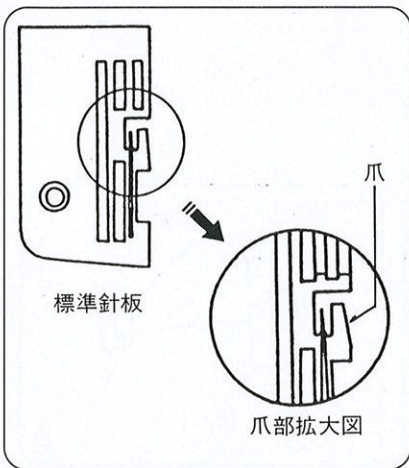
1. 縫い始める前に、すべての糸が正しく通されているかもう一度確認しておきます。
2. 上メスが解除になっていないか確認します。
3. はずみ車を2~3回手前に回し糸が針板の爪に正しくかかっているか確認します。
4. 空環が2~3cm出るよう空縫いします。
5. 押え金を上げ布の断ち目をメスの位置に合わせて布を置き、押え金をおろします。
6. フットコントローラを静かに踏んで縫い始めます。

布地はミシンによって自動的に送られます。無理に引っばったり押しすぎたりしないでください。

空縫い(からぬい)とは布地を縫わずにミシンを始動し、糸だけを送り出すことを言います。空環(からかん)とは空縫いによってできた糸の編み目形状を言います。

▲ 注意：ケガの原因になります。

針、ルーパー、メス、はずみ車等、可動部分に指や手、髪の毛を近づけないでください。始動の際にはすべてのカバーをとじてください。

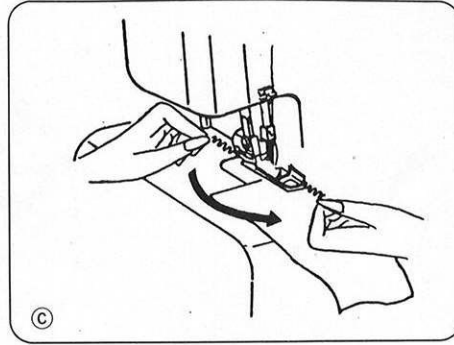
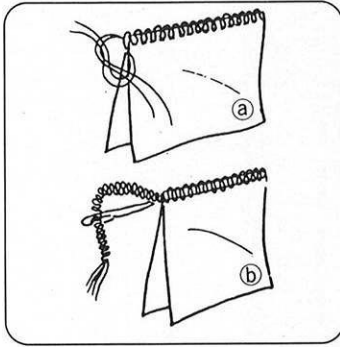


## ◇ 縫いおわり

1. 縫い終わったら、5~6cm空縫いをします。
2. 布地の端から3cmほどのところで、縫い糸を切ります。

## ◇ 糸端の始末

縫い糸がほどけるのを防ぐため、縫い始めと縫い終わりに糸端を布地から5cmほど残すことが大切です。縫い始めと縫い終わりの糸端をしっかりとさせるためには、以下の方法の中から、一つ選んで下さい。



- ①. 糸端を二つに別けて結びます。
- ②. トジ針で縫い目の中に入れてしまいます。
- ③. 返し縫い
  1. 始めに空環を3cmほど出しておきます。
  2. 布地を数針縫い、ミシンを止めます。
  3. はずみ車を回して針を上げ、押え金を上げます。
  4. 空環をしごいて伸ばし、押え金と布地の間に図のように左側から入れます。
  5. 押え金を下げて空環の上から縫います。

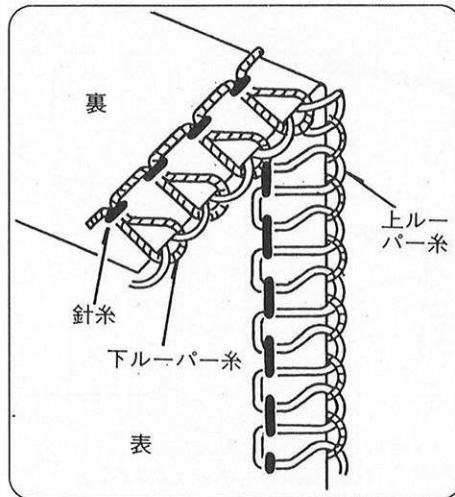
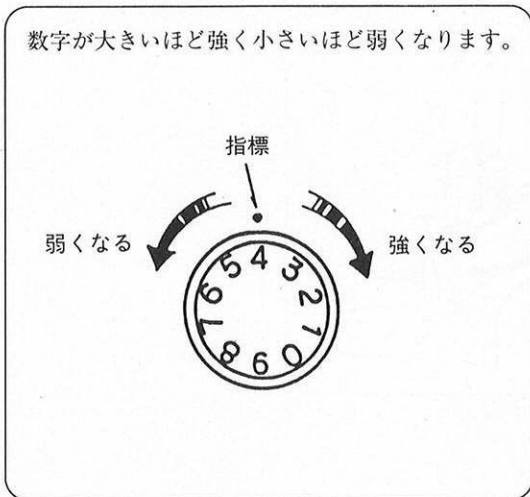


# ◇ 糸調子のとり方

糸調子は布地・糸の種類、送り目の大きさに合わせて調節する必要があります。

## 糸調子ダイヤル

## 正しい糸調子



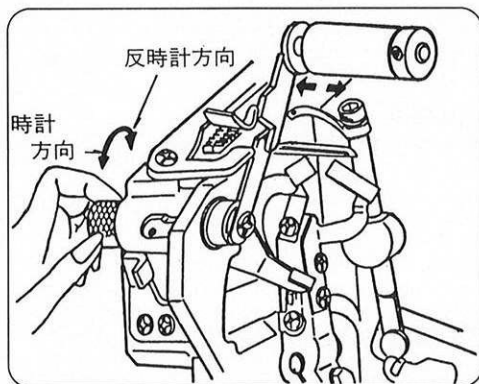
標準的な糸調子は、針糸と上ルーパー糸は3～5、下ルーパー糸は2～4です。縫おうとする布地の端切れで事前に試し縫いをして糸調子をとっておきます。

針糸がゆるい	上ルーパー糸が布地の裏側に出る場合	下ルーパー糸が布地の表側に出る場合
<p>針糸調子を強くします。</p>	<p>下ルーパー糸調子を弱くするか上ルーパー糸調子を強くします。</p>	<p>上ルーパー糸調子を弱くするか下ルーパー糸調子を強くします。</p>



## ◇ 送り目の調節

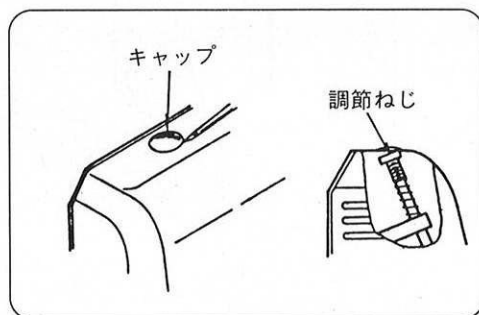
1. 数字が大きくなるほど、送り目は長くなり、数字が小さくなるほど、送り目は短くなります。
2. 送り目の長さは1～4mmの範囲で調節できます。
3. Nは通常の送り目の目安です。



## ◇ 切り幅の調節

布地の厚さにあわせて切り幅を調節できます。

1. 布台を開けます。
  2. 切り幅調節ダイヤルを回します。
    - 反時計方向に回すと、切り幅を大きくできます  
(薄い布地の場合)
    - 時計方向に回すと、切り幅を小さくできます。  
(厚い布地の場合)
- 通常針板の右端から下メスが1mmほど左へ入った状態が良いでしょう。

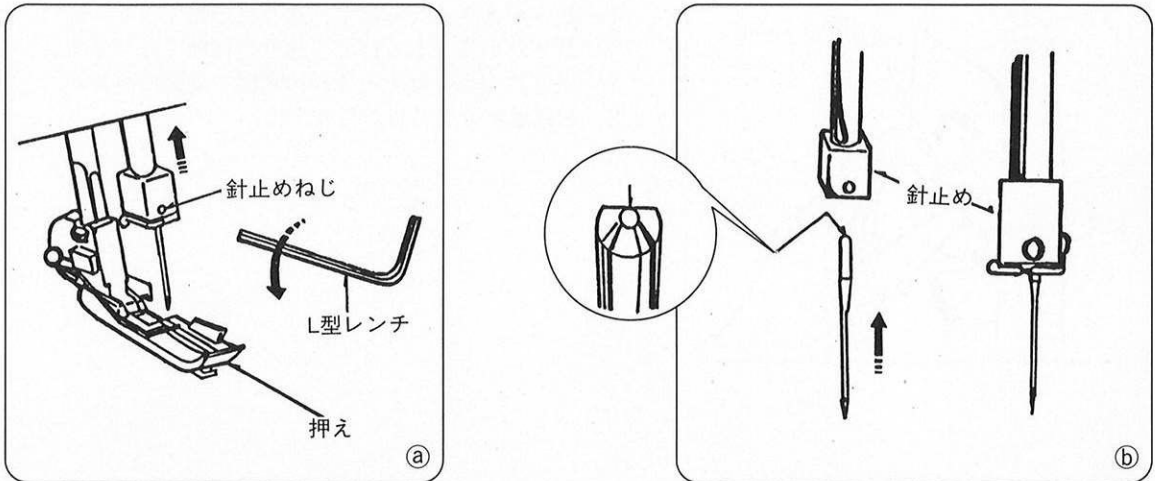


## ◇ 押え圧力の調節

1. キャップを取り除きます。
2. 大きなドライバーを用いて、ねじをまわします。
  - 厚地に対しては時計方向に回して、押え圧力を強くして下さい。
  - 薄地に対しては反時計方向に回して、押え圧力を弱くして下さい。

(注) 特殊な場合以外、押え圧力を調整する必要はほとんどありません。

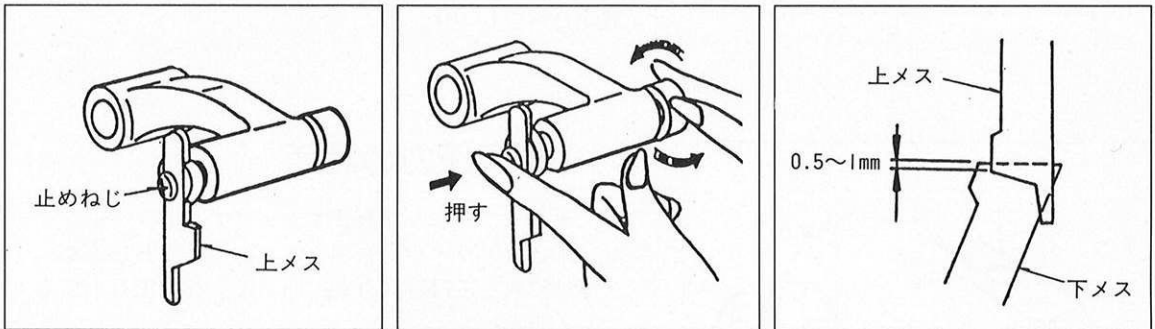
## ◇ 針の交換



▲注意：ケガ防止のため必ず電源プラグをぬいてから行って下さい。

1. はずみ車を手前に回し、針を上げます。  
付属のL型レンチで針止めねじをゆるめ針を抜いて下さい。(図㉔)
  2. 新しい針の平らな部分を後方にして、針止めが一番奥につき当たるまで差し込み、付属のL型レンチで針止めねじを固く締め付けます。(図㉕)
- (注) 折れたり曲がったり先のつぶれた針は使用しないで下さい。

## ◇ 上メスの交換 (メスの交換・調整はご購入店に依頼することをお勧めします。)

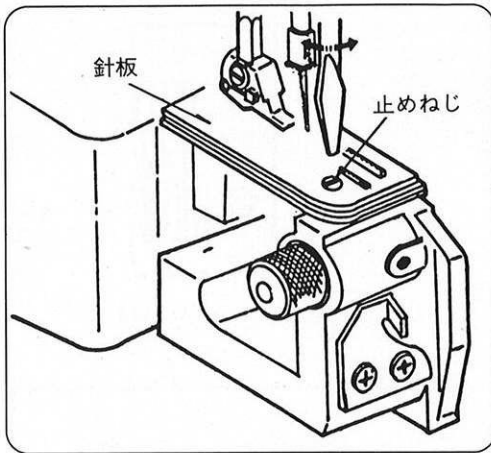


▲注意：ケガ防止のため必ず電源プラグをぬいてから行って下さい。

1. 前カバーを開けます。
  2. はずみ車を手前に回して上メスを最上点位置にします。
  3. 上メス止めねじをゆるめ、上メスを取り外します。
  4. 新しい上メスを取り付け、上メス止めねじを軽く締めます。
  5. はずみ車を手前に回して上メスと下メスの重なりが先端で0.5～1mmになるように上メスを位置決めし、上メス止めねじをしっかりと締め付けます。
- 上メスの解除  
上メスを右にいっぱい押し込んだ状態でつまみを矢印方向に回すと約270度回転した所で固定されます。

\* 下メスは特殊な固い材料で作られていますので、通常は交換の必要はありません。

## ◇ 針板の交換



▲ 注意：ケガ防止のために

針板を交換するときは、コンセントから電源プラグを抜いて下さい。

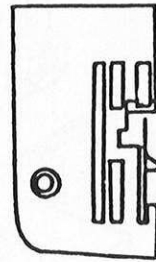
1. はずみ車を手前に回して針を上げます。
2. 布台をあけて、押え金を上げます。
3. 針板止めねじを付属のドライバーではずし、少し持ち上げるようにして針板を左へ取りはずします。
4. 針板を取り付け、止めねじを締め付けます。  
押え金をはずしてから行くとやりやすいでしょう。

# ◇ 巻き縫い、細幅縫い及びピコ縫い





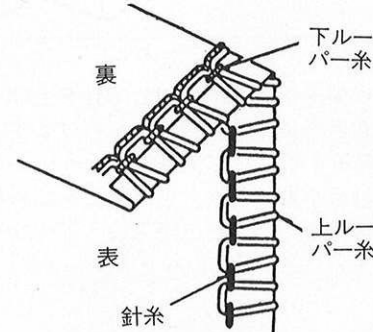




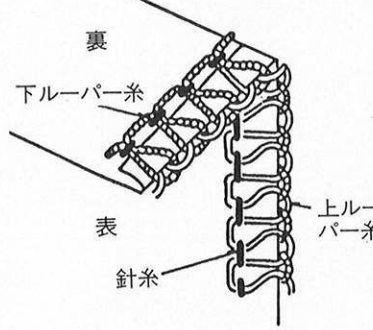




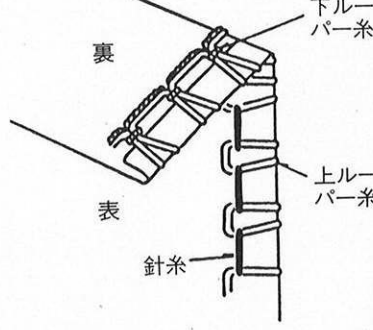
ふちをかがるだけでなく、装飾としても幅広い用途に利用できます。

巻き縫い、細幅縫い用針板に交換し(針板の交換前ページ参照)送り、糸調子を調節します。

布地の端を裏側に巻き込みながら縫いますので厚物には不向きです。

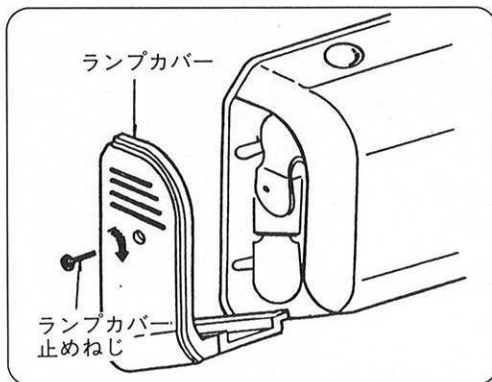
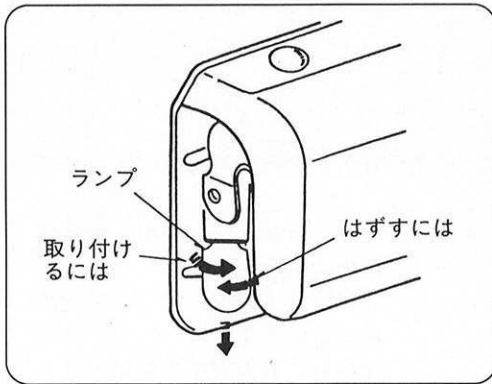
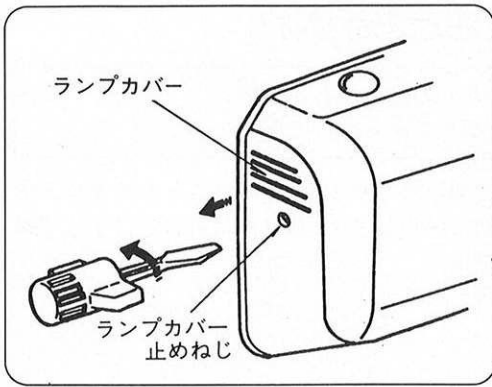


巻き縫い、細幅縫い用針板

<p>巻き縫い</p>  <p>送りダイヤル (1~2)</p>	<p>針糸調子 3~5 </p> <p>上ルーパー糸調子 3~5 </p> <p>下ルーパー糸調子 4~6 </p>	
<p>細幅縫い</p>  <p>送りダイヤル (1~2)</p>	<p>針糸調子 3~5 </p> <p>上ルーパー糸調子 3~5 </p> <p>下ルーパー糸調子 2~4 </p>	
<p>ピコ縫い</p>  <p>送りダイヤル (N~3.5)</p>	<p>針糸調子 2~4 </p> <p>上ルーパー糸調子 2~4 </p> <p>下ルーパー糸調子 3~5 </p>	

## ◇ ランプの取り換え方

▲注意：ヤケドの恐れがあります。  
電源を切りランプが十分さめてから行って下さい。

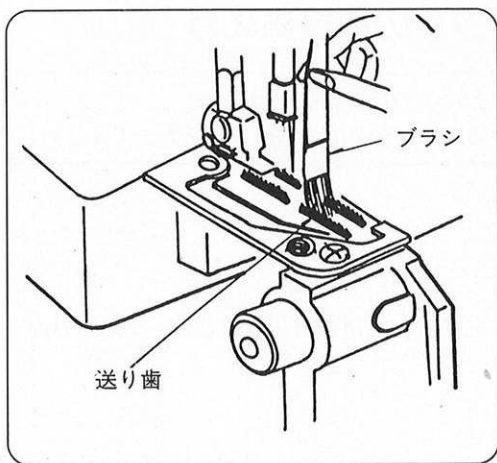


1. ランプカバー止めねじをゆるめ、ランプカバーをはずします。

2. ランプをはずすには左側に回します。ランプを取り付けるには右側に回します。

3. ランプカバーを取りつけ、ランプカバー止めねじを締め付けます。

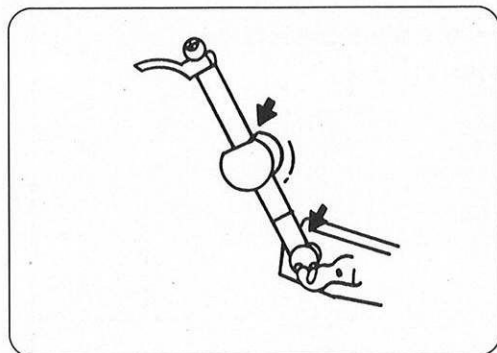
(注) ランプの消費電力は15Wです。  
ランプはお買い上げ販売店でお求め下さい。



## ◇ 注油とお手入れ

▲注意：ケガの恐れがあります。  
電源を切ってから行って下さい。

ミシンをご使用になりますと、綿ほこりがたまりますので定期的に掃除します。送り歯は針板をはずして掃除して下さい。



### 一注油

頻繁にご使用になる場合は定期的に注油して下さい。

注油のめやす：1日8時間、連日使用—毎日使用前に注油

1日2～3時間、週2～3回使用—週に1度注油

1ヶ月に数回以下の使用—月1度～数ヶ月に1度注油

左図の矢印箇所には1～2滴注油します。

## ◇ 調子が悪いときは

ミシンの調子が悪いときは、まず以下の項目を確かめて下さい。  
それでも直らない場合は、お買い上げの販売店へご相談下さい。

調子の悪い状態	原因	処置の仕方	参照ページ
糸が切れる	1. 針の取り付け方が悪い。	—針を正しく取り付けます。	18
	2. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	—新しい針に取り換えます。	18
	3. 糸調子が強すぎる。	—糸調子を調整します。	16
	4. 糸の通し方がまちがっている。	—糸を正しく通します。	8～13
針が折れる	1. 布地を無理にひっぱっている。	—布地を引っ張らないようにして下さい。	14
	2. 正しい針を使用していない。	—正しい針を使用して下さい。	24
	3. 針の取り付け方が悪い	—針を正しく取り付けます。	18
目飛びする	1. 針の取り付け方が悪い。	—針を正しく取り付けます。	18
	2. 針が曲がっていたり針先がつぶれている。	—新しい針に取り換えます。	18
	3. 糸の通し方がまちがっている。	—糸を正しく通します。	8～13
布地にしわがよる	1. 送り目長さが布地に合っていない。	—布地に合った送り目長さを調整します。	17
	2. 糸調子が強すぎる。	—糸調子を調整します。	16
	3. かがり幅が布地に合っていない。	—布地に合ったかがり幅を選びます。	17
ミシンの回転が重い	1. ミシン部分の一部に糸くずやゴミがついている。	—ミシンの手入れをします。	22
ミシンが動かない	1. 電源プラグがはずれている。	—電源プラグを差し込みます。	5

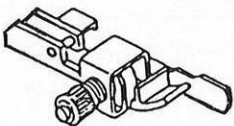
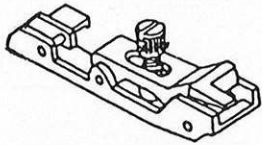


# 仕 様

かがり幅	4mm
	巻きロック .....1.5mm
縫い目(送り目)	1~4mm
メス上下量	6.5mm
押え上り量	5mm
送り歯高さ	0.7mm(標準)
使用針	HA×1(#11、#14)
使用糸本数	3本
照明ライト	100V 15W
ミシンの重さ	7.0kg(モーター付完成品)

(仕様の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。)

## リトルロッキーLR3専用アタッチメント(別売)

	<p>裾引き押え ニット地等のふちをかがりながらまつりぬいをします。</p>
	<p>ゴム押え ゴムテープ(平ゴム)を付けるときに使います。</p>

お求めはお買い上げ販売店にお尋ねください。

株式会社 **ジューキ**

〒102 東京都千代田区九段北1-11-11  
☎03(3265)2851(代表)

お客様へ——  
お買い上げ日、販売店名を記入されておきますと、修理などのときに便利です。

お買い上げ日	年      月      日
販売店名	
	Tel

¥ 300

A1P 111000